

第 4 回「とりまとめ」～今までのまとめと、これからのこと～

10月21日、小田原市の大会議室にて、第4回市民ホール管理運営計画市民委員会が行われました。第4回は市民委員27名、(女性7名、男性20名)、市の事務局スタッフ11名、その他の事務局スタッフ3名、専門委員会から松森委員の合計42名が参加しました。

管理運営計画市民委員会の最終回として、今までの議論の中で足りなかったことや、より強く実現したいこと、これからの活動についての議論を行いました。

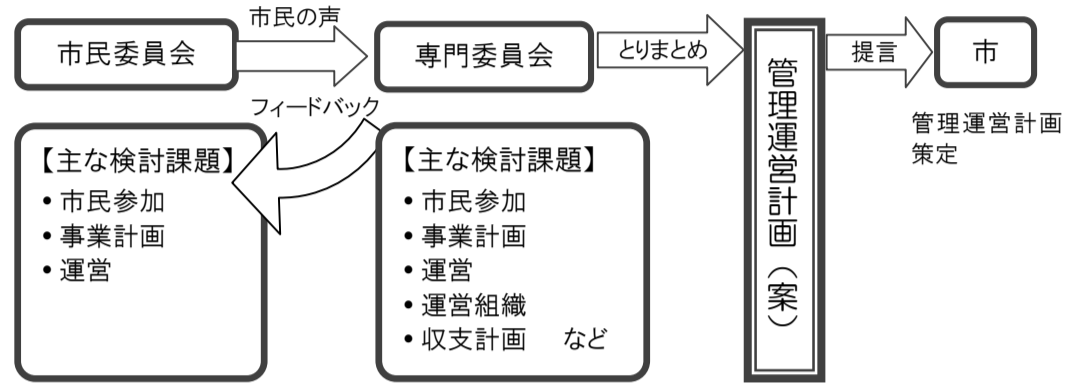
市民ホール管理運営計画市民委員会とは？

小田原市では現在、平成28年度の市民ホール完成に向けて、整備を進めており、これまで、平成22年度に基本構想、23年度に基本計画の策定を行いました。

24年度は、市民ホールを芸術文化創造の拠点とするための運営システム、事業計画及び市民参加のあり方等の方向性について定める、「市民ホール管理運営計画」を策定します。

管理運営計画の策定に当たっては、多くの市民の皆さんからご意見を伺い、管理運営計画の参考とするため、ワーキング形式の「市民委員会」を開催します。

市民委員会では様々な立場や視点による市民の声を集約していく場とし、いただいたご意見は、文化施設や文化活動に関する専門家で構成される「専門委員会」でさらに検討を重ね、計画案として形にしていきます。



市民ホール管理運営計画 今後の予定について

今後は11月25日の意見交換会にて「管理運営計画(骨子案)」を提示し、その後、市民意見と専門委員会での検討を踏まえて、「管理運営計画(案)」の策定をおこないます。

また、来年度以降も、より具体的な検討をおこなっていきます。

管理運営計画
専門委員会
(第1回～第4回)

管理運営計画
市民委員会
(全4回)

管理運営計画
意見交換会
(市民委員と専門委員
の意見交換会)

管理運営計画
(骨子案)の提示

管理運営計画
専門委員会
(第5回)

市民意見募集
(パブリックコメント)

管理運営計画
策定

25年度
以降の
検討へ

発表概要

1 班



市民が利用したい時に利用できるよう現行のシステムや事業を見直すこと、若い人の参画を促進していくことが求められました。

- ◆ 小田原市民だけでなく、市外の人にも来たいと思えるようなホールを目指す。中長期的に考えて、観客が呼べる催しや人材を育成できる環境を意識的につくる。
- ◆ 市民が利用したい時に利用できる仕組みをつくる必要がある。そのために、文化祭など現行事業の見直しを行わなければならない。
- ◆ 若い人たちが利用しやすくなる制度(専門的な指導等)を設ける。
- ◆ ボランティアについては慎重な検討が必要。

2 班



市民が自主的に組織をつかって関わりを継続していくこと、行政と市民が連携し共に進んでいくことが求められました。

- ◆ 現在は行政が市民を集めているが、市民同士での組織化はされていない。今後は、市民同士で連携していくことが必要になる。
- ◆ 市民コーディネーターが各部会と行政をつないでいく。そのためには、まず行政の組織がしっかりすること、市民組織と連携をとっていくことが必要。
- ◆ 市民がホールや事業を評価できる仕組みを、ソーシャルネットワークなども含めて考える。
- ◆ 子ども達を対象とした事業などで、ホールを支える若い人を育てていく。

3 班



行政やホールが組織をつくり市民が参加していくこと、参加・活動できる市民を発掘していくことが求められました。

- ◆ レセプションや記録・録音などを行う市民ボランティアを、市やホールが集めて組織化する。
- ◆ ボランティアや表現者などを発掘してくる組織が必要。
- ◆ 市民がモニタリング等を行ってホールや事業を評価し、共有するシステムがあると良い。
- ◆ 自主事業のプログラムは、市・市民・専門家により構成される委員会で決める。
- ◆ 市内既存施設や市外施設との連携を視野に入れた事業計画を練っていくべき。

★★★松森専門委員ミニレクチャーの内容をご紹介します★★★

～市民参加の意義とは～

- ◆ 市民委員の皆さんには、これまでの委員会でたくさんの議論を積み重ねていただきました。異なる意見がぶつかることもあったと思いますが、皆で話し合い、互いの意見を尊重しながらひとつの方向性へと取りまとめていくというプロセス自体が、非常に大切なことなのです。
- ◆ 今年9月に、新潟県で行われている越後妻有「大地の芸術祭」に行きました。この芸術祭には「こへび隊」というサポート組織があります。「こへび隊」は、世代・ジャンル・地域を越えた市民の自主的な集まりで、芸術祭の運営補助のほか、参加アーティストと地元の人たちを結びつけ、さらには地元の人同士の交流を促す役割も担っています。市民が芸術祭の目的を共有し、実現のために心をひとつにすることで、このような自発的なボランティア活動ができるのだと感じました。

- ◆ 各ホールが取り組んでいる「市民参加」には、公演等の鑑賞者としての参加、市民による公演等の参加型事業やワークショップ等の体験型事業への参加、レセプションや託児といったホール運営への参加、事業の企画・制作への参加など、様々な形態があります。
- ◆ 管理運営計画は、市民の皆さんがホールをどのように使っていくかを決めるものです。今年度は設計者の選定も行われており、来年度以降はこの設計者とともに、基本計画や管理運営計画を踏まえて基本設計の検討をおこなっていきます。
- ◆ 今後の検討においても、市民の皆さんに参加いただく場面があると思います。その際には、「事業を主催する側」「お客様をお迎えして接客する側」というホール側の視点も考えながら、議論を行っていただきたいと思います。

【プロフィール】

松森 隆一 氏

嘉悦大学副学長。ヤマハ株式会社音楽企画制作室室長として、約15年間にわたり自治体や公立文化ホールが主催するコンサート、音楽イベントの企画制作・プロデュース、企業の地域文化貢献活動等に携わった後、2008年4月より現職。文化政策、アートマネジメント、NPO論、行政経営等を幅広く研究。昨年度の基本計画策定から引き続き、管理運営計画専門委員を務める。

ワークシートのふせん内容をご紹介します

皆様のご意見はふせんに書込み、各班でワークシートにまとめました。
ここでは、皆様のご意見を全てご紹介します。

1 班

【市民参加】

若い世代に演奏する機会を提供する/ボランティアとは？→無理はしない、(有形の)対価を期待しない、ただし無償の対価！(やりがい)/運営+市民参加、ほんとに一般市民だけの運営委員会をつくる(専門家の無償アドバイザー)/若い方の参加を/アーティスト(有償)を支える無償ボランティア…矛盾はないのか/運営の拠点として、若人・学校・勤め人・中高年など各層向けのプログラムをつくる/有償のボランティアを考えなくては。「運営」である！/若い方を動員する！スカウトして参加していただく

【事業】

ホール自体がアミューズメント的性格をもっと持つべきである/地域の歴史を取り込んだ事業を考える/演劇や映画のときに背景・衣裳等の説明が欲しい。イヤホン等で聞けるとより楽しめる。/若い人を呼び込める事業が必要！/若い人、グループが低廉又は無料で公演できる仕組み/文化芸術の魅力を伝える、広げる工夫を重ねる！/人材育成の仕組みを持つこと/若い人たちの活動を支援・指導する仕組み

【運営】

身近に市民が楽しめる“場”の提供/年に一度でも、若い人、若い力を目覚めさせる活動を/若い人の育成→新しいホールを担う/若い音楽家に「場」を与えたい/若い人が利用しやすくなる制度を設ける。ホール使用の枠。スタッフによる専門的な指導体制。/演劇鑑賞協会のようなものをつくり、定期的に演劇がみられるようにしたい。/小学校・保育園など、子どもたちのところへアウトリーチをして、必ずホールへ結びつける/拠点として改めて若い人、学校、勤め人、高齢者の声を聞く計画/市民がホールを使用したいと思ったときにそれが確実に実現できる仕組みづくりが必要/市民文化祭短縮すればその分枠が空く。文化祭のあり方、ホール使用料の再考。/お客さんと呼べる演劇団体、音楽団体を育てる。専門家がワークショップをやり、人材を育てることが必要。→創造系のホール/広報・PRを強化(新しい手法を)/催し物に責任あるディレクターを市側で3、4名準備しておく良い/「ディレクター」「受け皿」行政が用意を！/次代に応じた運営を行う！/優秀な人材を集める！/人材を育てられるスタッフを早く雇用することが必要。中・長期的な戦略を持ってやらないと。/25年度に、学校や若いグループ(個人)向け広報の予算/文連の今後のあり方を一度ガッツと話し合うべき/「鑑賞組織」としての市民参加の仕方もある(桧森委員から)

【その他】

現に活動している美術グループ、音楽グループにヒアリングする。公的・半公的事例だけでは半分。/障がい者の車が予約なしで駐車できるように！/まず文連と市で文化祭のあり方をきちんと議論してください。その後市民を入れてください。/小田原でも都内並にお金を取れる魅力的なホールが欲しい/車椅子 25 台。高齢化社会を認めてほしい。/どんなホールになるのか分からないと議論できない/東京駅が人を呼んでいるように、小田原は木を象徴的に使ったホールにすれば市民が誇れるものになる/若い人のサポートが必要/実際に事業をやる人でないとわからない/設計仕様書は市議会に提供(公用)すべきと考えます。あまりに不勉強！/HallのHard姿が見えていない。大変なこと。/専門委員会の答申(正式)は出るのか/設計(仕様)にどこまで市民委員会、専門委員会の論議が反映される？/市役所の仕事のペースは街に比べて遅すぎ。前案廃止後2年で造ってほしかった。

3 班

【市民参加】

市民スタッフ募集、プロはボランティア参加/“自主事業”にはホール側と市民参加のしっかりとした組織を立ち上げる！年間の企画の作成をそれぞれ市民参加で/審議委員として市の方針決定に参画していく/市民等による企画をプレゼンできる、参加させる仕組みの組織/行われた行事の評価を行う市民組織/新事業を立ち上げるメンバー組織/表方の支援グループ。レセプション、アーカイブ、介助 etc/市民参加のきっかけとなるワークショップが必要/文化の中間支援、ボランティアの育成/手話などの福祉ボランティア/写真・映像での記録ボランティア、録音ボランティア、美術会場整備ボランティア/文化に興味があり、参加したい市民をいかに集めるか/宣伝や制作支援などの応援団(会員制)、アート NPO?に参加/舞台技術以外の裏方(例えば楽屋待ち、ケータリング etc)/音楽祭・演劇祭等、大規模な事業の受付、案内、PR、救護、ケータリング、介助等への参加

【事業】

演目(劇・音楽)の内容の解説を当日開演前にホール又は別室でレクチャーできる組織を立ち上げると、文化の普及につながると思う！/(発信できる)質の高い公演事業が必要/開館記念事業は展示ホールにて井上三綱展(平塚美術館に協力を依頼)/アウトリーチ事業実施とコーディネーターの育成(市民で経験者を募る)

【運営】

運営組織が必要/団体間・組織間をつなぐコーディネーター(市?個人?ホール?)/制作補助スタッフとしての参加(育成に5年以上)/地元合唱団と外国音楽団体との交流事業のお手伝い/市民(利用者)へアドバイスできる人材の活用/観客と舞台側の中間に立つ、コーディネーター的な人間が中心となる市民組織を作る。他地域のイベントをもコーディネートできる人材、組織もあれば良いと思う。

2 班

【市民参加】

事業案の公募制と委員会による事業化/包括的な市民組織と部会制/市民組織の中の市民間のネットワークと行政とがつながる/この市民委員が発展する形で、実際の「事業・管理・運営」に市民も入った組織ができるのであろうか？/この「市民委員会」は今後も続いて開かれるのであろうか？(行政にとってのメリットの問題?)/進化できる市民組織(市民協働の強化とともに)/意見を言える場を今後も継続したい/今ここに集まっているメンバーなどが今後も話し合える組織を作ろう/市民一人一人が受身から企画参加する側へと意識を変えていく/託児、イベント実施など、それぞれが得意分野を活かした関わり方が考えられる/市民が企画に参加できる仕組みづくり/市民力はある意味反専門家主義/参加しなくては意見は通らないということアピール/市民による評論組織/市民ホールの現在の市民委員の何らかの形態の継続/事業評価が継続的にできる市民参加組織

【事業】

自主事業と貸館事業の割り振りを固定化せず、それを決める方法をルール化/気軽に参加できる事業/料金(公演)、観たい人を増やすためのきっかけをつくる/小田原に根ざしたイベント/せっかくなので、わくわくできる魅力的なコンテンツを発信できるか？そのためには何をどうする…？/市民ホール友の会→行政補助も考える。全体の会費+好みのジャンルの会費→個々の総計として友の会費/西湘(含む箱根)全体の中での位置づけを整理して、その中での小田原市民ホールの差別化/西湘(含む箱根)全体のイベントの一括管理(情報告知)の機能を/ホールの大きさではなく質を求めるホールへ/各イベント、各事業のターゲットは？各主催者のマインド次第？プロモーションをどう考えるか？要検討の課題ですね

【運営】

休館日はあえて定めずイベントに応じて適宜/オンブズマン組織は必要/減免どうするか/経営的マインドも必要であろう。使用してもらおうのを営業する(売る)こともそれなりに行うほうがいい。

【その他】

ビジョン:市民の憧れ、目標となるような施設/音響を重視したホール/ハードはソフトに従うとのこと。建物の内部のデザイン(音響の良さ、バリアフリー、アクセスしやすさ、トイレ etc)も重要だが、外観デザインもそれなりのクオリティは必要である。

管理運営計画市民委員会 今後のスケジュール

開催日時	場 所	テーマ(予定)
シンポジウム (6/17) *終了		
第1回 *終了	7月22日(日) 10:00~12:30 市役所7F 大会議室	オリエンテーション 市民参加
第2回 *終了	8月5日(日) 10:00~12:30 市役所7F 大会議室	事業計画
先進事例視察 (8月24日) 神奈川芸術劇場 (KAAT) ・横浜市磯子区民文化センター杉田劇場		
第3回 *終了	9月9日(日) 10:00~12:30 市役所7F 大会議室	運営
第4回 *終了	10月21日(日) 10:00~12:30 市役所7F 大会議室	取りまとめ
市民委員と専門委員の意見交換会 (11月25日)		

管理運営計画意見交換会 スケジュール

(市民委員と専門委員の意見交換会)

開催日時	11月25日(日) 14:00~16:30
場所	市役所 7F 大会議室
出席者	◆専門委員(桧森委員長、桑谷副委員長、伊藤委員、市来委員、勝又委員、三ツ山委員) ◆市民委員の皆さん
内容(予定)	◆オリエンテーション ◆専門委員によるミニレクチャー「骨子案について」 ◆市民委員と専門委員との意見交換 など

◎市民委員以外の方々も傍聴できます。ぜひご参加ください。◎